

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	Academic Spoken English I		
英文授業科目名	Academic Spoken English I		
開講年度	2007年度	開講年次	1年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 電子工学科 知能機械工学科 システム工学科		
担当教官名	佐藤 美弥子		
居室	東1 - 615		

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>下記の【学生へのメッセージ】を先ず読んで欲しい。</p> <p>中学・高校で教わった「こういう場合には、こうなる」という結果論に終始する英文法を、「なぜ、そうなるのか」という観点から見直す。つまり、英語を第一言語とする人々の思考過程を知れば、英語のルールも解り、英語を使えるようになる。前期週二回のこの授業で「英語使用者」へと生まれ変わり、後期からは自信を持って「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能に磨きをかけて貰いたい。</p> <p>授業中には指導の機会がない「発音(リズム)」を、言語自習室(F棟101室)に導入したばかりの「リズム学習」プログラムを使用し、自習して貰う。学期の最初と最後に行なう個々人のレベルの判定も含め、学習履歴と「変化」を追跡し、必要に応じて個別指導をする。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
<p>教科書：Murphy, Raymond, and William R. Smalzer. Grammar in Use: Intermediate. 2nd ed. Cambridge: Cambridge UP, 2000.</p> <p>参考書：『語源中心受験英単語1300』（エイブル語学研究社、1993）</p>

電気通信大学 平成19年度シラバス

配布マニュアル：「リズム学習」

【授業内容とその進め方】

Present and Past (Units 1-6)
Present Perfect and Past (Units 7-17)
Future (Units 18-24)
Conditionals and “ Wish ” (Units 35-38)

内容の難易度や受講生の反応に応じて進度を変えるが、毎回、平均して、2 units はこなすので、かねてから疑問に思っている点を整理するなど、準備してくること。なお、時間があれば、Modals (Units 25-34)も取り上げる。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席（欠席回数が総授業回数の三分之一を超えると失格）、発言、小テスト、中間・期末試験の結果、リズム学習の成果を、成績評価の対象とする。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。授業終了後が不都合な場合は、教員と学生双方に都合のよい日時。

【学生へのメッセージ】

英語を使いこなすには、英語のルールを知っていなければならない。しかし、そのルールは、諸君もご存じのように、丸暗記しても身につかない。「こういう場合には、こうなる」という知識は、「なぜ、そうなるのか」を理解して初めて、運用も適用も可能となる。この授業では「なぜ？」の解明に受講生が総力を挙げて挑むことになる。教室での情報・意見の交換に積極的に参加しようという諸氏の受講を望む。

【その他】

金曜日開講の Academic Written English I と連動しているので、一方を履修すると他方も履修することになる。